

政

駐在所

上生坂警察官駐在所の沿革

- 明治22年5月 下生野平林義枝宅を借用して設置
31・8 上生坂藤原貞宅へ移る
39・6 小立野宮川美寿弥宅へ移る
40・11 上生坂平林昇宅へ移る
昭和6・4 井口幸一郎所有地の旧郵便局舎へ移転
26・4 日置神社境内へ新築移転
56・3 現在地へ新築移転（県有）
受持区域 上生坂草尾以南 現駐在 宮島武夫
(43代目)

山清路警察官駐在所の沿革

- 昭和32年5月 生坂村統合により雨会神社前へ新築
留置場も造る
46・12 現在地へ新築移転（県有）
受持区域 下生坂昭津以北 現駐在 金子文明

主な活動

1. 警邏巡回 2. 交通指導取り締まり 3. 刑事被害捜査・検挙 4. 防犯・未然防止非行防止 5. 暴力団侵入防止

広津の駐在所

雨会には明治9年に宇宿賀電所うすくがでんじょが設けられ、広津・陸郷・八坂・七貴を受け持ちました。同19年には、池田分署広津巡査派出所と改め広津・八坂を受け持ち、大正初年まで駐在所がありました。



駐在所内風景



昭和6年の駐在所（関屋下へ移築）



昭和26年の駐在所



昭和56年新築の駐在所



昭和46年新築の山清路駐在所

II. 福祉

保育園

沿革

- 昭和32年6月 大日向分教場に季節保育所を開く
 33・6 下生野田島堂に ”
 上生坂照明寺に ”
 40・8 中央保育園新築 10月公認保育所となる
 41・11 南保育園、北保育園新築完成
 49・4 北保育園を廃止し中央保育園に統合
 52・10 南保育園小規模保育所認可
 54・4 中央保育園現在地に移転
 57・3 中央保育園遊戯室完成
- 主な行事 七夕祭 遠足 運動会 クリスマス会
 誕生会 父親参観・祖父母参観
- 保母/園児数 中央 4/47・南 3/21



中央保育園の運動会 (昭和34年)



中央保育園の運動会で (平成元年)



南保育園の誕生会 (昭和57年)



北保育園のクリスマス
(昭和41年)



南保育園のリズム遊び

授産所

低所得者に対し就労の機会を与え、所得の増加を図るため、社会福祉事業法の規定により設置されました。

概要

	開設年月	就労人数	製作品
下生坂	昭和45年4月	15人(外13人)	コンデンサー チューブ加工、 凍結防止帯 コードその他
小立野	48・12	5人(外4人)	作業用シャツ その他
宇留賀	49・12	4人(外9人)	婦人スカート、 ベスト裏地 その他
合計50人			



生坂村授産所(本所・下生坂)



小立野分場



宇留賀分場



凍結防止帯コード作り(本所)



コンデンサー加工(本所)



小立野の作業用シャツ作り



宇留賀のスカート、ベストの裏地作り

保健活動



保健センター全景



胃の集団検診



ホームヘルパーの巡回指導出発

昭和60年12月に保健センターが完成し、各種検診に使われているほか、やまなみ荘の別館としても結婚式や会議に使われています。



農産物加工施設で行われた第2回健康祭。
“みそ汁のお味はどうですか”

平成元年からは毎月1回
行っている乳幼児健診



農協と共催で毎年行われる集団健康スクリーニングと歯科検診



診療所

administration



昭和21年の
山口診療所



昭和44年新築の
山口医院



平成元年10月新築の山口医院

歯科診療所開所式（昭和55年4月）



戦前無医村だった生坂にも次のように診療所ができました。

- 昭和21年12月 大日向に山口診療所開設
- 23・6 上生坂に開設、小長谷医師 二代松原女医
- 32・4 国保診療所となる 山口正直医師
- 44・8 梅月へ診療所山口医院移転新築
- 55・4 歯科診療所を保育園跡に開設する
歯科医は飯村基志 川住誠 鈴木一郎
神谷誠 神谷欽也と変わる。他に歯科
大より週1日応援
- 平成元・10 診療所山口医院新築 医師山口正英、
正直



昭和23年開設の診療所



歯科診療所(上)と診療風景(下)

III. 防災

災害

生坂村は、昔から台風や長雨による地すべりや洪水の災害に苦しんできました。特に昭和20年10月、34年8月、58年9月の台風被害は甚大で、各地で地すべりや浸水流失がありました。村では治山・治水事業を継続的に推進しています。



雲根国道上の地すべり 国道は交通止めとなる



小立野の浸水 1.5m近く水をかぶる(昭和58年9月)



吉坂の地すべり(昭和58年9月)
全壊1 半壊3 床上浸水1 床下浸水4

吉坂の災害復旧作業



土 木

災害の多い生坂では、戦前から土建業者が災害復旧に当たりました。現在村内には下生野に生坂建設・石川組、上生坂に平林建設・中山組、草尾に勝家建設、会に牛越建設、鷺ノ平に大町石産、古坂に野沢建設などがあります。

仕事の内容は砂防、堰堤、建設、道路、水道、圃場整備など多種多様です。

仕事の範囲は村内はもちろん、川手・筑北・安曇・北信方面にまで及んでいます。

現在村内で約140人が就労していますが、人手不足のため村外からも多数頼んでいます。後継者不足や資金不足も悩みの種です。



二番目に広く経営している生坂建設



administration



一番手広く経営している平林建設



下生野積手の道路復旧工事（平成元年）



小立野の災害復旧工事



小立野入の堰堤工事（平成元年）



宇留賀の堰堤

消 防

消防の現況（平成元年）

自動車ポンプ1台 可搬ポンプ17 消火栓75
 防火水槽112 動力ポンプ付積載車10 ホース341
 詰所10カ所 器具置場19（機動力あり11、なし8）

消防団の現況

本部 4分団、団長1 副団長2 本部長1 分団長4 副分
 団長4 部長10 班長33 団員125 計180人

部の内訳

- 第1分団 小立野部 下生野部 日岐部
- 第2分団 上生坂部 草尾部
- 第3分団 下生坂部 梶津部 大日向部
- 第4分団 宇留貫部 古坂部



第1分団小立野詰所



ラッパ訓練



本部および第2分団車庫



操法訓練
(昭和59年)



出初め式（昭和59年）



出初め式の行進
(昭和59年ごろ)

火災発生件数

年	52	53	54-57	58	59	60	61	62	63	平成元
件数	1	2	0	1	4	0	1	3	1	0



大正時代のポンプ・ばれん

IV. 産業

生坂は原川が低い所を流れているため、水田は少なく明治時代までは金熊川流域の宇留賀と麻績川流域の込路・入山方面にわずかにある程度でした。

小立野や上生坂では下川原の開田を江戸時代に着手しましたが、いずれも洪水のため流失し成功しませんでした。

上生坂では、何としても開田したいと考えた宮川良治他3人が発起人となり、明治44年県耕地整理事業の奨励があり、反対する人々を説得して大正元年10年着工、翌大正2年6月滝沢の石炭を使用した蒸気機関による揚水により12.6haを、翌年4ha、合計16.6haの開

生坂の開田

田、植付けに成功し、江戸時代からの悲願が実現しました。

その後はほとんど開田されませんでした。草尾では食糧増産のため昭和19年に7ha開田し、電気モーターで揚水しました。

終戦後は各地で競って人力による開田が行われました。モーターが焼けたり、管が破裂したり、土手が崩れたり、水がこなかったりと大変な苦勞をしましたが、やっと生坂の人々も自分で作った米が食べられるようになりました。

昭和24年ごろの大体の様子は次のとおりです。

地区	完成年	面積	現在	地区	完成年	面積	現在
小立野	昭和23	8ha	13ha	日岐	昭和24	6ha	6.5ha
下生野	22	13	18	真日岐	24	3	3
上生坂	23	6	5	牛沢	24	3	3
下生坂				草尾	19	7	8
木竹	23	1	1.5		23	1	
南部	23	1	5	梶本	23	3	3
東部	23	4	9	南平	*	6	6
芸根	21	3	3	北平	*	5	5
込地	22	0.5	1.2	会	*	3	1.5
上生坂	大正3	16.6	15	鷺ノ平	*	2	2



大正2年上生坂の蒸気機関揚水場（県内初）



(左)小立野 ポンプ小屋
(右)下生野 ポンプ小屋

(左)日岐 ポンプ小屋
(右)北平 ポンプ小屋



全国の名産品だった生坂煙草 たばこ

煙草が日本へ輸入され栽培が始まったのは慶長年間（1596～1615）と言われます。ポルトガル人の来航によって伝えられてまず九州で栽培され、その後急速に全国に伝播しました。

信州では生坂が一番古く、慶長年間に照明寺25世の良恵が諸国修行の際に長崎から種を持ち帰り、寺の雪隠（便所）尻へ試作したら大変良く育ったので近隣へ栽培法を教えたのが始まりと伝えられています。



つるした葉たばこ

幕府や松本城主の小笠原秀政は栽培を禁止しましたが生坂だけは殿様へ献上ということで特別に許可されたらしく、慶安4年（1651）の検地帳（土地台帳）をみると、筑摩・安曇地方では生坂だけに、たばこ畑が13町歩余載っています。

その後禁止がなくなったので県下に広がりました。筑摩・安曇・更級・水内方面から出る煙草は生坂煙草と総称されました。享保9年（1724）松本藩で出版した信府統記には「上生坂村はたばこの出る地で、信濃生坂煙草とて今は名物の数に入る…」と書かれています。

宝暦13年（1763）に松本の煙草問屋より他国へ運ばれた量は7200駄（約76万kg）松本第一の輸出品で、松本の問屋は生坂煙草により栄えました。

その後生坂にも煙草商ができて葉煙草で名古屋・三河方面に運びましたが、170年ほど前から刻み煙草として主に江戸の間屋へ運びました。明治5年江戸には取り引きした問屋は35軒もありました。

煙草商人は上生坂の一星をはじめ数多くいました。慶応元年（1865）旧生坂方面に9人、慶応2年陸郷・広津方面に少量の商人は162人もいました。煙草により生坂は生活が豊かになり江戸の文化が入り、優れた



照明寺境内にある生坂たばこ350年記念碑
昭和34年建立



江戸へ運んだ刻み煙草荷



煙草刻み道具